

山 弓 連

平成 25年 4月

新年度に向けて

会長 天野 裕

3月17日緑ヶ丘のスポーツ会館において山弓連総会が開催されました。役員改選の年であり選考委員会の提案が承認されて別表通りの顔ぶれのように交代がなされました。過去2年間の任期を終えた役員を代表して会員の皆様のご支援・ご協力に感謝とお礼を申し上げます。また旧役員同様に新役員共々会員諸氏のご支援とご協力をお願い致します。

24年度を総括する事業報告では、指導部の年間7回開かれた講習会には延べ91名の参加者しかありませんでした。内1回は称号者対象に3名しか希望者が無く、中止のやむなきに至りました。様々な理由があったかも知れません。しかし、何をか言わんや！！です。範士の先生方も仰るように、自らの研究心や工夫無くしてただ指導への依存心だけでは自分の射は育たないのではないか。この傾向が中央審査での合格率の低さに反映しているように思えます。

年間5回行われた四段以下の審査会では合計484名の受審者がありましたが、その内参段、四段を受審した一般社会人は128名で他は高校生の受審者でした。参段以下の受有者には審査への挑戦を大いに期待しております。

弓の楽しみで大きいものは、やはり競技会での上位入賞でしょう。競技部が担当する年8回の射会と総務部担当の全国勤労者選手権大会と全国健康福祉祭の県予選でも、予選会を趣旨としている射会や競技性の少ない射会では参加を断念している傾向が見られます。射会の内容や在り方に再検討も考えておりますが、技の上達を確認する意味でも積極的なご参加を強く期待致します。

弓道を嗜むからには、一度は全日本選手権大会に、そのステップとして関東選抜選手権大会にも挑戦したいと思うに違いありません。射品、射格も評価される採点制が採用されているのはこれらの大会だけです。或いは国民体育大会で優勝をと努力目標を定めるに違いありません。的中制での代表格はこの国民体育大会でしょう。昨年度は強化部の練習の甲斐あって少年女子、成年男女の3種別で関東ブロックの代表権を勝ち取りました。岐阜県で行われた国体では、その勢いが不運にも十分発揮出来ませんでした。今年は東京での本大会です。是非強化選手に1人でも多く参加して切磋琢磨の上に実力を磨いて頂きたいと願っております。

女子部は今年5月に東日本女子弓道大会という大きな射会を予定しておりました。各行事を通して競技部の応援を頂きながら競技会運営の練習に力を入れて来ましたが、大会実行委員会の組織上の都合により中止のやむなきに至りました。女子大会をメインとして自らの射技向上と女子弓道人口拡大を目指して活動してきた女子部は、その役割をこれまで十分に果たして下さいました。従前から辞任の意向を表明しておりました女子部長は東日本女子大会があるということで今期も続投の意を固めておりましたが、中止を期に辞任することになりました。残念ながら後任が定まらないまま当分の間、女子部は休部することになりました。全国的にも女子部を置かない地連は異例ではなく、女子部員も今後は男女の隔てなく山弓連内で同行の志として活動して頂きたいと願っております。

全弓連の改革について

一昨年11月に公益財団法人化した全日本弓道連盟は昨年1年間をかけて公益法人に相応しい組織の在り方、財政の在り方、事業の進め方を検討してきました。この度その骨子が纏まり、改革大綱(案)が去る4月4日全国臨時評議員会に提出されましたので、以下その概略を紹介します。

組織： 会長(1)、副会長(4)、専務理事、業務執行理事(4)

執行機能強化のため、企画部会、事業部会、指導部会、振興部会を設ける

役員の定年制導入：会長、副会長、理事は77才(就任時75才)まで、かつ4期8年まで。

名誉会員の名称を変更し、特別賛助会員とする。

財政： 恒常的赤字体質(毎年約4千万の赤字)・・・前期繰越金で補填してきた。

中央道場の維持管理費が赤字の主要要因(毎年2千万円赤字)

地連委託事業の適性処理の徹底(全弓連、連合会、地連との会計処理の統一)

地連会計の費目の標準化（旅費・日当・手当・謝金等のガイドライン作成）
 加盟団体分担金算出根拠の変更（地連会員1名につき1,000円を従来額に上乗せする…
 平成26年度から）

審査： 全弓連は連合会・地連を審査機関として認定し、審査委託契約を結ぶ(H.25)。
 審査の公平性と明瞭化（学科問題は事業部会で定める、**審査委員資格認定制度**を導入しH.26~27
 に順次運用）。推薦による昇格・昇段者は以後の審査を受審できる（推薦による昇段・昇格である
 ことを朱書する）。称号取得講習会による昇格者も推薦による者に準ずる。
 四段以下は師事している師範名の記入は不要。

競技： 「公認」という概念の導入…公認大会、公認審判員、公認用具等。
 競技関係者の有資格者化を(H.26以降)段階的に導入。
 国体への対応： 選手・監督兼務の問題解消に向け日体協と早急に対応。
 弓具規格統一認証制度の導入…公認競技会に適用
 （ワシントン条約に抵触する羽根は使用を禁止する）。

その他、指導・講習の在り方、啓発・普及への方策、広報活動、国際弓連の充実等に向けての方策と提案
 がなされ、平成25～26年度に順次実行されることとなりました。公益目的に沿った体質改善により、弓
 道界は新たな体制づくりに着手しました。共々力を合わせて実現に協力して行きたいと思いを。

平成25, 26年度 山梨県弓道連盟 役員名簿									
名誉会長	中澤利正	副会長	古屋俊彦	理事長	森岡博文	審査部長	西堀泰弘	監事	小澤重平
顧問	秋山照美	副会長	菊池敏彦	総務部長	芦沢茂幸	競技部長	長田長久	監事	市川 明
会長	天野 裕	副会長	青野孝文	指導部長	小林源治	強化部長	深澤武重		

平成25年度 段位別兼全日本、関東選抜予選会 平成25年4月17日（日）小瀬武道館

総参加数・70名 申込数・参段以下17名 参加17名 申込数四段10名参加8名 **開始9時30分**
 申込数 五段16名 参加15名 申込数称号27名参加21名 **終了14時05分**

70名の参加を得て、山弓連の全員が参加できる新年度最初の大会が開催されました。
 いささか少なすぎる感が否めない70名という参加で行われた試合は内容の濃い大会でした。
 参段以下の優勝は、今大会ただ一人の8射皆中の棚本佳秀選手でした。四段、五段の優勝者をはじめ、入賞
 者は2年連続入賞という快挙を成しています。是非6月における2次選考会には素晴らしい成績を期待した
 いと思いを。

				1	2	3	4	5	6	7	8	的中	
参段以下	1位	棚本佳秀	大月	三段	○	○	○	○	○	○	○	8	
	2位	渡辺 大	富士吉田	二段	○	○	○	×	○	○	○	7	
	3位	岩崎 博	大月	三段	○	×	○	○	×	○	○	6	
岩崎選手2年連続入賞													
四段	1位	藤原直之	笛吹	四段	○	○	○	○	○	○	×	7	
	2位	上条剛央	上野原	四段	○	○	×	○	○	○	×	6	
	3位	根津里美	笛吹	四段	○	○	×	×	○	○	×	5	
1位藤原選手、2位上条選手、2年連続													
五段	1位	渡辺幸太	富士吉田	五段	○	○	○	○	○	○	×	7	
	2位	渡辺祐介	甲府	五段	○	○	×	×	○	○	○	6	
	3位	雨宮 哲	笛吹	五段	○	○	×	○	○	×	○	6	
優勝、渡辺選手、2年連続													
称号	1位	綿奈部博史	甲府	錬士六段	○	○	○	○	×	○	○	7	○
	2位	佐野辰巳	南部	教士七段	○	○	○	○	○	○	×	7	×
	3位	深澤武重	南ア	教士六段	○	○	○	○	○	○	×	7	×
綿奈部、佐野選手2年連続入賞													

ねんりんピック
 山梨県代表選手
 岩崎 博 (参段) 大月
 市川 明 (五段) 笛吹
 西堀泰弘 (教六) 甲府
 鈴木茂雄 (錬六) 大月
 曾根敦子 (四段) 笛吹
 補欠
 古屋清記 (五段) 山梨
 小林 睦 (錬五) 北杜
 予備
 伊藤 昇 (錬六) 大月